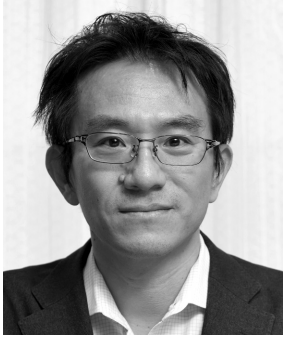
◇経済倶楽部講演会第４４７７回（11月24日）

習近平は中国外交をどう変えたのか

――習近平外交の行方と日本の取るべき道

パナソニック総研主幹研究員　町田（まちだ）穂高（ほたか）

＊12年ぶりに戻った中国で感じた違和感
＊習近平が登場した経緯
＊総書記に権限を集中させた習近平
＊外交ではグローバル構想を打ち出す
＊ターニングポイントはいつだったか
＊盛んに言及する人類運命共同体という言葉
＊習近平の目指す人類運命共同体とは何か
＊ここへきて変質してきた一帯一路
＊経済のため欧米との対立は回避
＊日本は中国とどう向き合うべきか



山縣　それでは開会いたします。（拍手）

本日は、パナソニック総研主幹研究員の町田穂高先生に来ていただきました。

パナソニック総研は2年前にできた新しい総研ですけれども、米中関係とか循環社会とかＡＩとか、そういった問題を扱う研究所として発足しています。先生は、実は去年まで外務省にいらっしゃって、これまでのキャリアとしては外務省でのご活躍が主軸になっていらっしゃいます。中国、安全保障問題を今担当されているわけですけれども、実際に中国との外交の現場にいらっしゃった方で、大使館勤務も何回もあります。ですから、実際実務を知って中国の分析を今されているというところが最大の特色かと思います。

東洋経済オンラインではもう既に何度か原稿を書いていただいておりまして、ここで何人か中国の専門家をいつもお呼びしておりますけれども、先生は新世代の、新しい世代の中国の研究者として今後の活躍が非常に期待されている新進気鋭の方です。

今日は、じっくり外交のこと、中国の外交がいちばんのご専門ですので、そこのところをお話しいただくことにいたします。

それでは先生、よろしくお願いいたします。（拍手）

12年ぶりに戻った中国で感じた違和感

町田　ただいまご紹介いただきました町田でございます。今日はどうぞよろしくお願いいた